

《担当者名》教授／小島 弘幸 教授／浜上 尚也 准教授／小林 大祐 准教授／寺崎 将

【概 要】

英語論文の抄読を中心とした演習を通して、英語読解力・論文作成能力を養い、さらに衛生薬学特論の講義内容について基礎的理解並びに衛生薬学に関する応用的知識を深めることを目的とする。

- ・食品成分が生体に及ぼす機能性に関する最近の文献を抄読し、その機能性を分子レベルで理解する。
- ・環境汚染物質によるヒトへの曝露に関する最近の文献を抄読し、その毒性機序や疾患との関わりを分子レベルや疫学的知見から理解する。

【学修目標】

- ・食品の有害性に関する文献を網羅的に抄読し、食品中含有成分の毒性発現メカニズムを分子レベルで理解できる。
- ・食用及び薬用植物成分によるがんをはじめとする各種疾患の化学予防に関する文献を網羅的に抄読し、臨床応用の可能性と今後の課題について考察できる。
- ・環境汚染物質の実態を最近の文献から理解し、近年社会問題となっている事象に対して科学的根拠に基づき方策を提案できる。
- ・種々の疾患（骨粗鬆症、がん、神経変性疾患、メタボリックシンドローム）の成因と治療に関する最近の文献を抄読し、その予防における栄養管理の重要性を理解できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1 (4	栄養素 食品汚染 食品の変質	・五大栄養素に関する最近の知見を概説できる。 ・食品に含まれる化学物質について最近の知見を概説できる。 ・食品の変質に関する最近の知見を概説できる。	浜上 尚也
5 (7	食事摂取基準 栄養素の過不足による疾病 保健機能食品 体内動態	・日本における栄養摂取の現状と問題点を概説できる。 ・栄養素の過不足と疾病の関係について最近の知見を概説できる。 ・保健機能食品について最近の知見を概説できる。 ・薬物や毒物の体内動態について最近の知見を概説できる。	小林 大祐
8 (15	健康と環境	・環境を保全してヒトの健康を保持・増進する理念を概説できる。 ・環境に関する最近の社会問題を例に取り、健康科学の重要性を概説できる。 ・種々の疾患の成因と治療法について整理し、概説できる。 ・疾患の予防における栄養管理の重要性を概説できる。	小島 弘幸 寺崎 将

【授業実施形態】

面接授業

※授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

授業態度(30%)、課題レポート(70%)

【教科書】

なし

【学修の準備】

関連分野の基礎的知識を確認し、論文の内容を理解できるよう準備する。